

# 生産動態調査

## 繊維部門

(昭和33年1月度分)

(調査企画課商工調査係)

### 概況

#### 織物

**綿織物**の生産は前月度の約4%増、引渡高は約4%減と略前月度水準を維持している。

**絹織物**の生産は前月度の約1%減、引渡高は約30%減となっている。

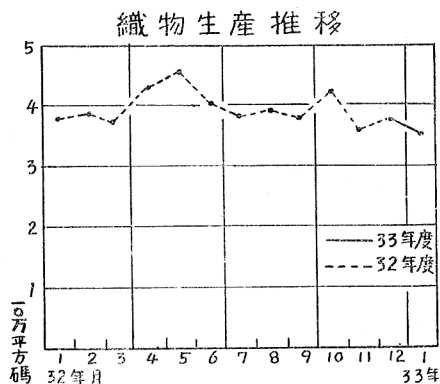
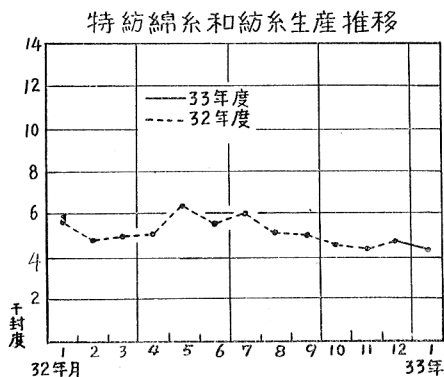
**和紡織物**は問屋よりの注文少なく、生産高は前月度の約87%減と大巾に減少し、引渡高も60%減少している。

#### メリヤス製品

メリヤス製品の生産は春夏物生産には間があり、前月度より約30%減少し、引渡高も約24%減少している。

#### 縫製品

縫製品は冬物より春物生産への切替時期にあるので作業服の生産高および引渡高の増加が目立つ程度でそれ以外の目は生産高、引渡高とも減少し、月末在庫高は増加した。



#### (1) 対象工場数

業種	特紡和紡糸	綿織物	絹織物	メリヤス製品	雑繊維製品	縫製品	製
対象	5	17	319	11	3	14	
操業	5	14	292	11	3	14	
休止	—	3	27	—	—	—	

生産および出荷状況

品目別	単位	生産高		引渡高		月末在庫高	
		当月度	前月100対比	当月度	前月100対比	当月度	前月100対比
計	封度	41,930	91	71,640	142	25,540	46
綿	糸	17,500	73	46,600	168	14,500	33
ス	コフ	12,700	109	12,500	84	1,400	117
特	紡綿	4,750	100	5,000	100	500	67
和	紡	6,980	124	7,540	288	9,140	94
織物	計	349,985	94	329,861	96	273,315	105
綿	織物	255,653	104	243,124	96	129,302	112
絹	織物	36,527	97	19,524	76	81,360	126
絹	紡織物	4,787	127	4,232	103	5,185	112
和	紡織物	6,576	13	11,113	40	46,583	76
特	紡織物	—	—	—	—	—	—
ス	フ織物	15,741	215	15,741	215	—	—
人	絹織物	—	—	—	—	—	—
合成	繊維織物	30,701	101	36,127	134	10,885	67
メリヤス	生地	4,034	73	3,825	58	669	142
製品	計	9,368	70	10,384	76	9,603	110
肌	着	1,311	60	1,209	54	535	124
外	衣	142	67	142	67	—	—
手	衣	6,115	71	6,302	68	5,898	139
靴	下	1,800	75	2,731	139	3,170	77
計	封度	2,441	172	2,489	160	2,791	112
漁	網	648	78	1,074	53	854	67
漁	具	1,793	304	1,415	165	1,937	159
学	校	1,179	73	1,169	62	1,314	101
作	業	5,907	177	4,234	125	1,775	192
制	服	3,129	51	3,129	51	—	—
乳児	および子供	248	24	308	18	945	171
服	既成	4,315	72	4,690	72	2,904	99
中	衣、肌	11,101	37	14,924	36	62,689	94
中	入	99,067	98	98,927	95	22,444	101
ふ	とん	245,297	98	227,601	89	81,485	128

★本表は、生産動態統計調査規則に定められている繊維工場を調査対象としたものであるが、特紡糸、和紡糸以外の紡績工場および抽出調査工場は含まれていない。

# 機 械 部 門

(昭和33年1月度分)

## 概 況

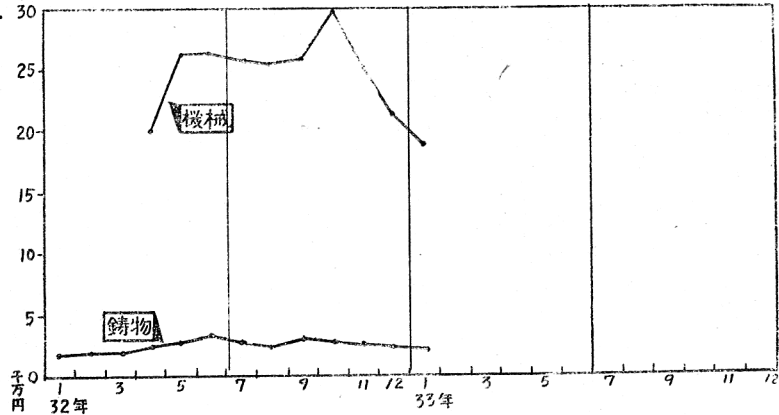
◎本年1月度より新たに機械製造業についても公表することにした。通産省生産動態統計機械調査は大企業については通産局扱、中小企業については県扱となつているので、この調査によつて本県工業の推移をもとめることは困難であるが、中小企業の動向を見るのには相当有意義と思われる。すなわち本県中小企業の動向を生産面より見ると、時期的なずれはあるにせよ上昇、転換、下降という日本経済の動向と同一過程をふんだことがグラフにもはつきりあらわれているのである。

### 昨 年 の 概 況

**上旬** 31年に引続き好況で生産が季節的に下降期にもかかわらず31年の水準を維持した。  
**中旬** 引続き好景気がつづいたが、いわゆる投資景気のため国際収支が悪化し、それにとまない金融引締政策が行つた結果生産は下降頭打状態となつた。  
**下旬** 国際収支の改善がなされ、早くも10月に収支が黒字になるや景気を持直しを見せたが対外依存の経済のためリカを一連とする世界経済の不況の波にのまれふたたび下降をつづけながら年を越した。

**1 月 度 概 況** 機械工業についての対比は困難であるが生産金額については前月より25%の減少である。鋳物工業は総合では前月対比は13%の減であるが前年同月対比は10%の増である。

生 産 金 額 の 推 移

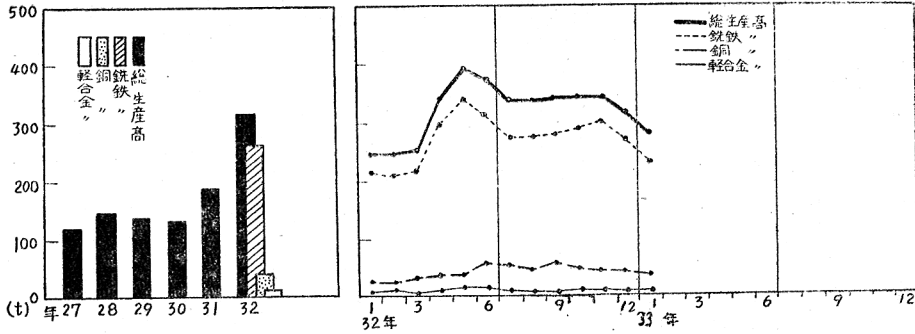


機 械 工 業 (数量=kg、金額=千円)

33 金 属 製 品 製 造 業		34 機 械 製 造 業		341 ボイラー原動機製造業		342 農業用機械製造業		344 金属加工機械製造業		346 特殊産業用機械製造業		347 一般産業用装置製造業	
		数 量	金 額	数 量	金 額	数 量	金 額	数 量	金 額	数 量	金 額	数 量	金 額
33,453	8,264	84,751 421基	41,958	14,620	3,006	9,258	6,672	18,400	5,210	23,652			
349 その他の機械、機械部分品製造業		351 発電用送電用配電用産業用電気機械器具製造業		354 通信機械器具同連機械器具製造業		357 電気計測器製造業		377 時計同部分品製造業		36 輸送用機械器具製造業		機械工業	
18,821 421基	13,064	3,932台	47,265	1,328台 2,018個	13,396	4,865個	2,933	464,306個 104,800	58,051	223,004 4,721台 469,999個 421基			
対 象 事 業 所 数				44				対 比				前 月	
事 業 所 実 人 員				2,929								前 年 同 月	

※ 本表は下記の定義にもとずいたものである。  
 1. 分類方法は日本標準分類製造業Ⅱによる。  
 2. 調査内容は生産動態統計調査規則機械品目表中にある工場で従業員20名以上(特例超硬工具自転車工業作業工具5名以上)を有するものを対象とした。ただし通産局調査分は含まれない。  
 3. 数量欄中kgで表わせない品目は個数等による。

### 鑄物生産高の推移



### 鑄物工業 (重量=kg、金額=千円)

品目	鑄物総数		鉄鉄鑄物		銅鑄物								アルミニウム鑄物	
					銅		青銅		黄銅		その他銅			
	重量	金額	重量	金額	重量	金額	重量	金額	重量	金額	重量	金額	重量	金額
産業機械器具用	148,569	13,278	144,798	11,375	132	77	2,362	1,108	18	9	181	145	1,078	564
船舶	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
道路及び車輛用	6,728	1,118	5,375	472	—	—	522	231	219	79	—	—	612	336
電気通信	49,142	9,154	36,812	3,189	3,938	2,166	6,720	2,979	—	—	—	—	1,672	820
漁具	2,108	214	2,100	210	—	—	—	—	—	—	—	—	8	4
船舶	1,324	652	—	—	—	—	1,162	546	62	26	—	—	100	80
日用品	9,452	683	9,452	683	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
型定盤	7,800	273	7,800	273	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ボール	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
受メタル	10,511	7,613	—	—	—	—	10,511	7,613	—	—	—	—	—	—
ブツ	11,218	3,610	—	—	—	—	5,014	1,749	6,204	1,861	—	—	—	—
築用	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
密機器	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
自動車	4,350	1,930	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4,350	1,930
他の機械器具	21,504	1,450	21,017	1,261	—	—	487	189	—	—	—	—	—	—
その他	2,865	302	2,762	254	—	—	68	36	—	—	—	—	35	12
計	275,571	40,277	230,116	17,717	4,070	2,243	26,846	14,451	6,503	1,975	181	145	7,855	3,746
比	前月	87	88	85	84	—	—	97	89	—	—	—	100	99
前年同月	110	125	106	108	—	—	158	155	—	—	—	—	101	103
対象事業所数	25	—	16	—	—	—	10	—	—	—	—	—	6	—
事業所当該人員	718	—	454	—	—	—	290	—	—	—	—	—	102	—

本表は下記の定義にもとづいたものである。

- 鉄鉄鑄物は10名以上銅合金鑄物、軽合金鑄物は5名以上を有するものを対象とした。ただし通産局調査分は含まれない。
- 鑄物総数中対象事業所および事業所人員欄は実数である。

**雑貨部門**

(昭和33年1月度分)

概況

**草 靴**

今月の生産は338足で前月に比べると13%の減であり前年同月より37%の減少である。

**漆 器**

今月は生産60%出荷52%と共に低下した。これは正月に入ってから発注が大幅に減少したためと思われる。

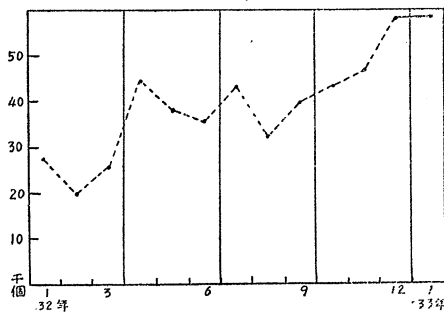
**建築用コンクリートブロック**

今月の生産は58,552個で前月に比べると1%の増加であるが出荷においては42%の減を示している。

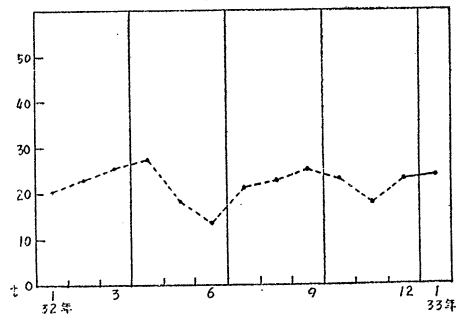
**陶 磁 器**

今月の生産数量は231,988kgで前月に比べると1%の増加であり前年同月より12%の増加である。

コンクリートブロック製品の推移



陶磁器製品の推移



品名	区分	単位	生産数量			出荷数量						月末在庫 数量	事業所 数 (操業)	
			数量	前月 対比	金額	国内向			輸出向					
						数量	前月 対比	金額	数量	前月 対比	金額			
靴	総	数	338	87	782	348	81	917	—	—	—	410	5(5)	
	男子総革靴	〃	191	75	548	204	75	595	—	—	—	178		
	婦人	〃	136	101	228	133	86	316	—	—	—	232		
	その他靴	〃	11	—	6	11	—	6	—	—	—	—		
食器	総	数	1,669	60	904	1,459	52	877	—	—	—	271	12(9)	
	食器類	〃	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	食卓、膳盆類	〃	469	38	79	369	30	67	—	—	—	100		
	その他	〃	1,200	77	825	1,090	70	810	—	—	—	168		
コンクリートブロック	総	数	58,552	101	1,990	37,931	58	1,345	—	—	—	82,587	5(5)	
	A種	基本	〃	2,060	21	62	3,314	35	123	—	—	—		7,106
		異型	〃	2,143	32	69	2,081	28	59	—	—	—		4,173
	B種	基本	〃	2,840	184	85	1,560	83	62	—	—	—		1,756
		異型	〃	675	150	20	540	104	21	—	—	—		701
	C種	基本	〃	29,347	164	1,014	18,589	88	711	—	—	—		28,594
		異型	〃	3,419	54	117	3,170	62	125	—	—	—		8,345
帳壁用ブロック	〃	18,068	122	623	8,677	44	244	—	—	—	31,912			
電気用品	総	数	231,988	101	23,066	178,354	72	22,558	—	—	—	204,163	21(20)	
	特別高圧用碍子	〃	36,970	87	14,283	36,970	87	14,283	—	—	—	—		
		高圧用碍子	〃	1,532	64	1,829	1,532	64	1,829	—	—	—		—
		低圧用碍子	〃	—	—	—	—	—	—	—	—	—		—
		その他	〃	4,876	123	5,110	4,811	124	5,040	—	—	—		265
	家庭用品	〃	138,610	99	1,344	91,041	58	994	—	—	—	192,598		
衛生用品	〃	50,000	124	500	44,000	106	412	—	—	—	11,100			
その他	〃	—	—	—	—	—	—	—	—	—	200			

※対象工場数、生産数量及び出荷数量において2以下の事業所については公表を禁じられているので、金属洋食器、赤れんが、がん具、がらす製品は除外した。

革靴、陶磁器は5人以上の事業所、漆器、コンクリートブロックは全事業所である。